

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホームの理念の意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援とホームと地域の関係性を重視している。 ・具体的なケアについて職員全体で話し合い、考え方の統一を図るようにしている。	法人理念を基に施設独自の理念が作られており、契約時に利用者・家族に説明している。施設内各所に掲示し来訪者にも分かりやすくなっている。職員全体会議で理念に基づくサービスの提供について話し合い、共有と実践に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・開所間もない為、今後は地域の行事に極力参加し、地域の人達と挨拶を交わすよう心掛けていきたい。 ・地域のボランティアの方々とは月1回は、交流を図っている。(傾聴・音楽・腹話術等)	自治会には母体の法人が加入し区費を納め、地域の一員として活動に参加している。公民館行事がある時には住民から誘いの声が掛かり出掛け、利用者が知り合いから「まあ～懐かしいわね」と話しかけるとこともある。散歩以外にも地域の行事や商店などに出掛け地域とのつながりを深めようと取り組んでいる。定期的に住民ボランティアの訪問を受けており、今後は幼稚園や保育園の園児、中学生等との交流も考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・開所間もない為具体的活動は無いが、今後地域の研修や啓発の場に職員が出かけて、高齢者のケアサービスの推進に取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在2か月に1度開催し、検討事項や勘案事項を1つ1つ積み上げてより良い施設となるよう努力し、サービスの向上を図っている。	利用者(交替)・家族代表・区長・民生委員・包括支援センター職員・市職員等をメンバーに平成23年12月以降、定期的(偶数月の月末10時～12時頃)に開催している。ホームの運営や活動報告を議題に取り上げ質問や要望などを頂きながら参加者との意見交換が行われており、有意義な会議となっている。頂いた貴重な意見・要望はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認定調査の機会等に市担当者と、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めるようにしている。	開設当初から制度上のことや利用者のこと等、分からないことがあれば介護保険課担当者に相談し助言や情報を得ている。担当者は何事においても協力的であり施設側も積極的に連絡を取っている。あんしん(介護)相談員の受け入れを希望しており、市に申し込みたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・リスクに関してご家族と十分な話し合いをして、納得と理解を頂くようしている。 ・個々のご利用者の特性を職員全員が理解および共有し事故の無い暮らしができるよう心掛けている。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解しており利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。施設環境に慣れない(利用間もない)利用者に関しては外出傾向が見られたが施錠に頼らずチームプレーで対応し自由な生活を提供した。以前、車椅子から立ち上がる利用者に一時的に拘束を行ったことはあるが、家族の了解の上、解除に向けた経過記録を残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者は職員の行動について極力把握できるよう努めている。 ・ミーティングを随時実施し、虐待防止についての心構えを指導している。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修に参加したり、都度勉強会を開催し、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には契約書の内容および重要事項説明を丁寧に説明している。 ・今後とも理解、納得をされるよう十分な説明をしていきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議やご家族の方の来所時に、お気軽に意見を言っていたく雰囲気づくりに留意し、反映させている。	利用者からの要望は日々の関わりの中で受け止め、散歩や献立等に活かしている。毎月、各家族に利用者ごとの写真と生活状況一言コメントを郵送し、来訪時にもコミュニケーションを図るよう心がけている。出された意見や要望は検討し運営に反映させている。契約時には施設以外の意見、苦情等表出先を伝えている。ホーム内には外部の苦情・要望受付ポスターも掲示されていた。家族会の立ち上げを検討しており、ホーム便りも6月より発行されている。	訪問調査日、職員の名前が分からず声をかけるにも躊躇してしまった。利用者や家族、来訪者のためにも職員の名前が分かるような工夫をお願いしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員の意見、要望を聞くとともに、ミーティングで話し合いをして決めている。	月1回の2ユニット合同会議には理事長も出席し、運営上の重要事項も含め議題に沿った話し合いが行われている。ユニット会議を適宜開き、利用者のことやケア検討などを行っている。朝・夕の引継ぎは口頭と連絡ノートで伝え合っている。管理者は毎月一回、職員と個人面接をし、仕事のことやプライベートの相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の外部研修参加や資格取得に向けた支援をしている。 ・職員の体調管理に気を配り、休憩時間の取得等モチベーション向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修には、極力多くの職員が参加して能力向上を図るべく指導およびOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・(開設間もない為)今後同業者との交流する機会を取り入れて行きたいと考えている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人が施設の生活に慣れるよう親身にお世話をし、信頼関係の樹立を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の意見や考え方を聞き、信頼関係の樹立を図るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人・ご家族および介護者との信頼関係の樹立に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・社員全員が、ご利用者各人の性格や生活状況を知り、思い遣りの精神を持って日々接する様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人とご家族との絆を深めるよう、生活のお写真や出来事を都度お知らせして理解を深めている。 ・来訪時は、ご本人とご家族の潤滑油となるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・一人一人の生活環境を知り、支援している。	家族や親戚の来訪が多い。馴染みの友人、近所の知人、趣味(カラオケ、踊りなど)の仲間の来訪で無事を確認しあったり、昔の話に盛り上がる利用者もいる。本人の希望する理美容院に職員と一緒に出掛けたり、雑誌を買いに本屋に出かける方もいる。お正月には多くの利用者が自宅へ日帰りしたり外泊もしている。「帰りたい」、「帰りたい」と願っていた利用者が息子さんに連れられて自宅へ帰り、今は希望が叶ったと落ち着いて暮らしている。誕生日に家族とともに自宅へ戻ったり、外食に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の関係が、円滑になるよう日頃のおやつやレクリエーションを行い親睦を深めている。 ・ボランティアの方が、時々来所され全員でお楽しみ会を行っている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・今後の課題としてきめの細かい対応を図りたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。また、意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得る様にしている。	殆どの利用者が言葉や仕草で意思表示が出来る。職員は利用者が答え易い言葉で話しかけたり問いかけをし、思いや意向の把握に努めている。意思表示が難しい利用者は現在いないが、生活暦や家族等の情報、利用後の様子などを参考にしながら本人本位に検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人の今までの生活過程を知ることで、その人への理解が深められるので、極力その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご本人の暮らしの現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。	本人や家族の意向を基に、計画作成担当者が職員と話し合い、本人が自分らしく暮せるための介護計画を作成している。見直しは概ね3ヶ月毎に行っている。本人の状態変化や意向の変更などで計画通りに遂行できない場合は新たなものに作り変えている。介護計画は利用者、家族に説明し確認印を頂くようになっているが全員の方からまだいただけていないため新たな方法を模索している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にファイルし、食事、排泄、入浴等身体的状況および日々の暮らしの状況を記録している。 ・職員が情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人、ご家族の要望等を臨機応変に対応している。 ・通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の一環で、傾聴ボランティアの皆様が定期的に訪れ、地元のお話や話題等していただいている。 ・図書館資源を活用している。(絵本、紙芝居等) 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医はご本人やご家族が希望する医師となっている。 ・必要に応じて、受診の付添をしている。 	<p>かかりつけ医で2週毎に受診している。看護師は利用者の健康管理や状態異常の早期発見に努め、適切な医療が受けられるよう関係医療機関との連携を密にしている。専門医への受診には医師からの紹介状と看護師の状態連絡表が用意され、付き添いは家族にお願いしている。家族同伴が難しい時や緊急時には職員が付き添っている。受診前後の家族への連絡や報告は電話で伝えている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。 ・階下には、神楽橋医院なので医師への対応、連携がすばやくできる体制である。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。 ・入院状況の把握に努め、都度ご家族または病院関係者とコンセンサスを取っている。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人やご家族の意向を踏まえ医師、職員が連携を取って対応していくこととしている。 	<p>契約時に重度化や終末期に関してホームが出来ることを利用者や家族に伝えている。開設以降看取りの事例はないが、終末期をホームで過ごしながらい医療機関に移られて最期を迎えた利用者はいる。今後、本人に状態変化が生じた場合には早い時期から医師や家族と話し合い、本人・家族の思いに沿える支援をしていきたいと考えている。</p>	<p>「重度化した場合及び終末期における対応に係る指針」の作成や職員の意思統一の仕方など、徐々に整備されていくことを望みます。</p>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・併設されている医院の医師にまず初期対応してもらい、その指示に従って対応できるようにしている。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で地元区長および民生委員に協力体制をお願いしている。 ・看護師から応急処置等について勉強会を積み上げている。 	<p>年間の消防計画(含む震災)が作成されている。今年度はこの7月に昼間想定消防訓練を予定し住民代表として区長、民生委員が参加される。利用者が2階、3階で生活しているため避難に関しては利用者一人ひとりの避難方法が検討され一覧表になっている。自衛消防編成名簿には個々の役割が明確になっている。防災設備としてスプリンクラー、火災報知機、緊急通報装置、誘導灯、消火器等がある。食品や介護用品等の備蓄も用意されている。</p>	<p>利用者の居住場所が2階、3階なので避難誘導が確実に出来るよう取り組まれることと年間の消防計画通りに訓練を実施され、利用者の安全安心に繋がれることを望みます。</p>

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご本人の気持ちをまず第一に考えて、さりげないケアをしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、気持ちよく生活できるよう支援している。好ましくない対応や言葉かけがあれば職員間でも注意あっている。入浴時や排泄支援には特に注意を払い支援している。苗字に「さん」をつけて利用者は呼ばれており、職員も丁寧な言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご本人が自分の意思を率直に言え、自己決定できる雰囲気づくりを日頃から心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを大切にして、それに合わせた対応をしている。 ・その日の体調、様子を見ながらご本人の希望や表情をみて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・個々の生活習慣に合わせた支援やご家族の意向を聞きながら取り組んでいる。 ・本人の馴染みの美容院を聞いて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者の好みを聞いたり、職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気大切にしている。	食事に関する一連の作業の中で、本人の力量に応じながら盛り付け、食事の挨拶、下膳、洗い物、食器拭きなどに加わっていただいている。食事中は料理の出来栄を褒めあったり、地域によって違うソバやお焼きの作り方、嫁と姑に関する昔の話などで盛り上がり、楽しい時間となっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量も個々に合わせて確認し、ご本人の好きな食べ物や食べやすさを考え工夫している。 ・一人ひとりの体調と摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分でできる方は声掛け見守りをし、出来ない方には毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。		

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、ご利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類もご本人に合わせながら検討している。	一人ひとりの排泄パターンや様子などから職員は何気なく付き添ったり、時には声をかけるなどしながらトイレに誘導している。夜間にポータブルトイレやオムツを使う方はいるが、日中はオムツから紙パンツに替えてトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄パターンを記録し、十分な水分補給と便秘対策に取り組んでいる。 ・なるべく身体を動かすことの大切さを職員全員に意識づけさせている。 ・毎日軽い体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・多い人は毎日、また月から金は毎日入浴できるように支援している。	入浴時間を午前中と夕食前とで大まかに分けているが本人が入りたい時に入浴できるよう支援している。一日に4~6名が入浴している。時々、入浴を拒む利用者もいるが、声かけのタイミングを工夫したり、時間を置いてから他の職員が声をかけたりして本人がその気になるのを待ち、ケースバイケースで対応している。お風呂に入ってしまうと「気持ちが良い」と満足の表情を見せている。菖蒲湯、柚子湯、入浴剤など、香りも楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを整えゆっくり休息がとれるようにしている。 ・寝付けないときは、温かい飲み物を飲んで話をする機会を設けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・看護師がご利用者毎に、処方箋に基づいた朝・昼・夜等の管理袋に整理し、服薬時には、ご本人に手交し服薬を確認している。 ・ご利用者毎の薬の処方に職員全員が、共有し、間違えの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・可能な限り一人ひとりの持てる能力を生かした仕事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・近くの公園に散歩や3階のテラスに腰掛けお茶を飲みながら外の空気に触れるようにしている。 ・月に1度は、季節ごとのレクリエーションをして楽しんでいる。(バラ園散策、サクラ見学、紅葉見学等)	日常的には施設周辺を散歩しており、車椅子の方も一緒に出掛けている。家族と外出される方もいるが本人から要望があれば個別に外出支援(書店、ドーナツ店など)も行っている。四季折々、計画的に近隣市町村の名所や公園、神社などへドライブがてら出掛けている。公園へお花見に出掛けた時は家族も同行し、お昼御飯を食べながら家族同士や家族と職員との交流につながった。	

グループホームかぐらばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在お金については、個人所持は無いので、ご家族と相談しながら今後の課題として支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話はいつでも希望があれば、掛けることができる。はがきも用意してあるので、希望があれば出せるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節ごとの飾り物に心掛けている。(雛祭り・鯉のぼり・利用者の絵、塗り絵等)	食堂のテーブルにはアジサイの花が飾られ、壁には花の塗り絵が貼られていた。2階、3階に各ユニットがあるので見晴らしが良く、広々とした居間兼食堂の窓からは遠くには山なみが見え、近くには緑の木々が点在する間に住宅の屋根が見える。訪問調査の終了時には「今日泊って行くの?」「勿体ないね、美味しいご馳走が出るし、お風呂も気持ち良いのに」と利用者の数名から引き止められた。利用者が安心して満足しながら過ごしている様子を窺うことができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・花や絵を飾り居間ホールの応接でゆったりとテレビや音楽を聴けるようにしている。 ・落ち着いたくつろげるスペースがあるので、更に快適な生活ができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者毎には、差があるが極力ご家族の協力を得て馴染みの家具等を置いたり、また衣類等はご家族にお願いし、季節毎に入れ替えていただいている。	ベッドと大きなクローゼットが備え付けられた広く明るい居室には自宅で愛用していた家具が置かれ、その上にはご主人と二人での写真が所狭しと飾られていた。何でも片付けないと落ち着かない方の居室は丸めたカーペットとベッド以外は全てクローゼットに収められており、すっきりとしていた。人形や鏡台のある居室などもあり、一人ひとりの個性に合わせた居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ご利用者の身体的状況を考えながら、極力不安・混乱材料を取り除き、自立できる生活が送れるようにしている。		